令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書／事後評価書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

共同制作支援事業	
事業名 （公演名）	共同制作オペラ「高野聖」
代表団体名	公益財団法人石川県音楽文化振興事業団
劇場・音楽堂 等の名称	金沢歌劇座 高崎芸術劇場
実演芸術団体 等の名称	オーケストラ・アンサンブル金沢 群馬交響楽団
内定額	20,970　（千円）

（1）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1．公演に関する数値目標】

入場者数計	2,319	入場者率（%）	76.4%		収益率（%）	
会場名①		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
高崎芸術劇場		プロセニアム	2,027	1,522	1	
入場者数	863	入場者率（%）	56.7%			
会場名②		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
金沢歌劇座		プロセニアム	1,919	1,514	1	
入場者数	1,456	入場者率（%）	96.2%			
会場名③		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
入場者数		入場者率（%）				
会場名④		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
入場者数		入場者率（%）				
会場名⑤		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
入場者数		入場者率（%）				
会場名⑥		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
入場者数		入場者率（%）				
会場名⑦		会場状況・施設形式等	会場の定員数	設定席数	公演回数	補足事項
入場者数		入場者率（%）				

備考	

（2）助成対象事業（公演）における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 助成対象事業（公演）について、実施会場ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

	会場名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
1	高崎芸術劇場	目標値	950	51.8%	観客満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（大変良かった、満足した）と回答した人が80%以上	
		実績値	863	56.7%			アンケートの5段階評価で上位2段階（大変良かった、満足した）と回答した人が80%
2	金沢歌劇座	目標値	1,016	75.7%	観客満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（大変良かった、満足した）と回答した人が80%以上	WEB回答：98．2% 紙回答：86．8%
		実績値	1,456	96.2%	合唱団オーディション参加人数	参加者60人以上	参加者36名 ※オーディション未実施
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書／事後評価書

②（評価・所見）

共同制作支援事業	
事業名 （公演名）	共同制作オペラ「高野聖」
代表団体名	公益財団法人石川県音楽文化振興事業団
劇場・音楽堂 等の名称	金沢歌劇座、 高崎芸術劇場
実演芸術団体 等の名称	オーケストラ・アンサンブル金沢、 群馬交響楽団
内定額	20,970　（千円）

（１）助成対象事業（公演）の自己評価

「成果報告書／事後評価書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※１）を記入してください。

（※１）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

	会場名	自己評価	所見
1	高崎芸術劇場	評価指標とした観客満足度については、アンケートの上位 2 段階（大変良かった、満足した）の回答が全体の 80%という目標を達成できた。アンケートには「親しみやすい」「初めてだが 楽しかった」といった感想が多く、オペラ初心者でも十分に楽しめる内容であること、作品や公演が広く受け入れられたことが見受けられた。	高崎はこれまでにも共同制作の枠組みのなかでオペラを上演している。今回はよく知られた海外の名作とは異なり、日本文学作品の日本語オペラである。高崎では作者泉鏡花および「高野聖」という小説もあまりなじみがないようだ。入場者率は 56.7%であった。ただし顧客満足度は目標と同じ 80%を達成した。
2	金沢歌劇座	毎年開催しているオペラ公演であるが、昨年度に引き続き、チケット完売となったことは、金沢にオペラ文化が根付きつつあることを示している。観客満足度も高く、WEB 回答で９８%、紙回答でも８６%となっており、目標値を大きく超える成果を上げた。合唱団の募集に関しては、ほぼ定数である３６名の応募があり当初オーディションを検討していたが、結果として全員合格となった。またオーディションに関しては、関係者の意見として（参加者がほぼ同じ顔ぶれとなるため）毎年実施する必要性に疑問を感じるとの声があった。地方都市のためか、そもそも合唱人口（特にオペラ合唱関係者）が少なく参加者が固定化している傾向があり、今後の課題となっている。	他方金沢は泉鏡花の本拠地であり、作品もよく知られており話題を呼んだ。入場者率は 96.2%に達し、顧客満足度も目標を大きく上回った。合唱団も定数の応募を得ている。 合唱団は他の劇場・音楽堂において育成しているところもある。毎年一回はオペラ出演があり合唱だけのコンサートも予定されているなどを背景としている。金沢の合唱人口が少ないのは合唱団としての出演機会が稀で組織化しにくい事情があるのだろう。歌劇座と銘打つならば将来を見据えた対応が必要であろう。そろそろクォリティ維持と地域オペラ振興のバランスを考える時期かもしれない。
3			

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目①：創造性・企画性

評価の観点	・先導性があり、特色ある実演芸術の事業計画である。 ・優れた芸術家、スタッフ等が才能、技能を発揮し、国際的水準の公演が期待できる。 ・我が国の実演芸術を牽引する効果、国内外での評価の向上につながる。

評価指標（※２）	目標（値）（※３）	実績（値）
A.　日本文化を象徴する新しい舞台を目指し、日本を代表する歌舞伎役者を起用する。	A.初めてオペラを鑑賞する観客数の増加 100 人以上	A.日本を代表する歌舞伎役者である坂東玉三郎氏を起用しオペラ初鑑賞の方の集客に努めた。オペラ初鑑賞観客数１９名以上。
B.積極的な広報戦略を行い、多ジャンル媒体で取り上げてもらう。	B.40 件以上	B.　21 件（雑誌及び新聞）、SNS では多数投稿。
C.批評家、新聞、雑誌掲載レビュー	C.公演の高評価 8 割以上	C.北國新聞（11/28 朝刊：潮博恵） モーストリー（３月号:垣花理恵子） 音楽の友（２月号：池田卓夫）

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	日本文学の名作の一つである泉鏡花の幻想小説を、日本作曲界の重鎮・池辺晋一郎氏の作曲によって仕上げた日本語のオペラであり、日本文学の幽玄性、日本語の持つ美しさ、日本人の美しい所作を統合した総合芸術を上演できたことは、和製オペラ振興の一助になったと捉える。 そして今回は、歌舞伎界の大御所・坂東玉三郎氏が関わることにより注目度の高い公演とすることができた。日本を代表する歌舞伎俳優である坂東玉三郎氏を配役したほか、城博憲、冨平安希子など若手で実力のある歌手をキャスティング出来たことは、大きな成果だった。特に坂東玉三郎氏の影響は大きく、県内外から多くの問い合わせがあり、関心の高さを感じられた。また、舞踏手として世界的舞踏集団「山海塾」の参加もあり、作品に厚みを加えることが出来た。歌舞伎界と舞踏界の第一人者に出演頂くことで、その業界からの注目も大変あり、オペラが初めての方に向けても公演観劇するきっかけになったと考えている。スタッフにも劇団四季で活躍されている土屋茂昭（美術）、塚本悟（照明）が加わり、泉鏡花の作品の中でも特に妖艶な「高野聖」の世界観を舞台上で見事に表現できたと考えている。また、東京のスタッフに頼るだけでなく、地元（地方）スタッフの育成にも力を入れており、大道具製作・操作、照明操作、音響、衣裳製作等に関しては地元で依頼した。まだまだ十分とは言えないかもしれないが、少しずつ経験を積んでおり、そのノウハウは着実に蓄積していると考えている。 オペラ初鑑賞人数は目標値には届かなかったと考えているが、体感では５０名程度は来場されていたと推測される。先にも記述したが、(初めてのオペラ観劇の方を含めて）多くの方を集客できたことは大きな成果と考えている。広報面では掲載４０件以上という目標値には届かなかったが、稽古場からのSNS発信やPR動画などの効果もあり、公演直前ではあるが、全席完売とすることが出来た。 作品の評価であるが、批評家、新聞での評価は高かったことに加え、個別に鑑賞者に評価を伺ったが、悪い評価はほとんどなく、ほとんどが良い評価であった。 金沢では、公演前日にチケット購入者を対象にしたバックステージツアーを開催した。４０名の参加者枠が２日で埋まるなど期待の高さが伺えた。ツアー内容は、作曲の池辺晋一郎氏による作品（作曲）解説に始まり、オーケストラが演奏するオーケストラピットの見学（解説付き)、大道具解説、衣裳見学など普段目にする事の出来ない舞台裏をめぐるコースで、当初１時間程度を想定していたが、途中、参加者からの質問が多く出て、予定していた１時間を大幅に超過するなど、大変盛況であった。 また、合唱団参加者に、公演参加の意欲を高めるため、公演で使用する小道具（仮面）について、制作されたものを身に着けるのではなく、合唱団員自ら製作する事を企画し、実現のために舞台美術の土屋氏、演出の原氏に依頼して仮面製作ワークショップを開催した。丸二日間かけての制作は大変であったが、その分参加者の満足度は高く、金沢の合唱団が製作した仮面を高崎の合唱団が身に着けるなど地域間交流も生まれた。 現状、地方だけでこれだけ創造的な舞台作品を制作する事は難しいが、その実施経験は確実に力となっており、将来的には地方スタッフだけで作品制作できることを目指している。
所見	日本文学作品を題材とし、日本人作曲家（池辺晋一郎）による日本語での上演の意義は大きい。再演ではあるが創造性、企画性を高く評価したい。キャスティングでは冨平安希子の歌唱と演技力は優れていた。歌手と演技はともすればバランスを欠くこともあるが､冨平はその両方を兼ね備え良い出来映えであった。現地オーケストラや合唱団起用は共同制作の趣旨に叶い地域の芸術資源活用として意義があった。 今回の作品は 2011 年の初演である。当初 3 時間であったものがいくつかのシーンのカットやナレーション導入などにより短縮され、手際よく進行するよううまく整理されていたことも成功の要因であったといえる。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：地域性

評価の観点	・劇場・音楽堂等が単独では事業を実現しにくいような地域においても創造性の高い公演の鑑賞機会の提供を実現する計画である。

評価指標（※２）	目標（値）（※３）	実績（値）
A.地元の芸術団体と連携し、地域文化活動の活性化に繋げる。	A.地元オーケストラ、合唱団の起用	A.【金沢】管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢、合唱：金沢オペラ合唱団、【高崎】管弦楽：群馬交響楽団
B.【金沢】地域の大学が研究題材として取り上げ、連携して発信する。	B.携わる学生へのインタビューで実施意義の評価を得る	B.地元大学（金沢星稜大学女子短期大学部 山田ゼミナール）と共同で原作とオペラ化した場合の違いを考察し冊子にまとめ、公演時に観客に配布した。
C.地域文化振興への貢献度	C.アンケートにて地域におけるオペラを「また観たい」と回答する人が80%以上	C.本項目のアンケート未実施

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	出演者の側面からは、群馬県前橋市出身のバリトン歌手・今井俊輔氏がソリストとして出演。高崎公演では、高崎で生まれた地方オーケストラの雄・群馬交響楽団が参加し、数少ないオペラ公演全幕演奏の経験値を積むことができた。金沢では市民合唱団を結成し、市民参加型の公演となった。 地元大学で文学作品の研究をテーマとしている研究室（ゼミ）と連携し、「高野聖」の原作を読み解き、学生の視点で初心者にもわかりやすく解説した「高野聖」解説冊子を製作し入場者に配布した。学生の大半はオペラを観劇したことがなく、当初は戸惑いも感じられたものの、「小説」と初演時の「オペラ」映像を見て、違いを知ってもらう事で、新たな視点での考察を入れたり、敷居が高く感じられるオペラを身近なものとして感じてもらえるよう学生が自ら描いたイラストを多用するなどのアイデアも出てきて、公演後でも楽しめるような冊子となった。１１月２日（日）には石川県立音楽堂で冊子制作にあたり研究した成果発表会を行い、オペラ普及活動にも尽力した。また、昨年に引き続き地元新聞社と連携し戦略的に広報活動を行った。さらに、金沢市内にある泉鏡花記念館に脚本のセリフを専門家の立場から確認してもらうことや泉鏡花役の衣裳の相談にのってもらうなど細かな部分にも配慮して制作にあたった。このほか毎月開催しているランチタイムコンサートにおいて、公演に出演するソリストに実際の曲を公演にさきがけて歌ってもらうことで、３００人を超える人たちに日本オペラを知ってもらい、曲間には注目ポイントや稽古時の裏話を入れるなど、集客に努めた。 創造性・企画性の部分でも記述したが、スタッフに関して、出来るだけ地元業者で行えるように調整した。もちろん、演出家の意向等もあり、全て地元で行う事は難しかったが、大道具製作、衣裳製作等、いくつかの部門は地方スタッフで対応しており、地域の文化力向上に寄与していると考えている。
所見	地域オーケストラの起用や金沢などの市民参加型合唱団の結成などは地域拠点を生かした取組みである。参加した団体や関係者の意見（エピソードやグッドプラクティス）も聞きたいところである。また大道具や衣裳なども現地スタッフで対応するなど将来の地域文化力育成に寄与した。広報などにおいては大学との連携やメディアへの協力を仰ぎ集客や認知度も向上した。オペラ上演を通じた地域の芸術文化振興に成果を残したと考える。
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・人々の実演芸術に対する関心、参加への意欲を引き出し高めるような取り組み、工夫がなされている。 ・障害の有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、幅広い人々が参加できるような配慮がなされている。

評価指標（※2）	目標（値）（※3）	実績（値）
A.青少年のオペラ鑑賞機会の拡大	A.学生招待や学生割引チケット販売数 200 人以上	A.４２名
B.日本オペラへの関心度の向上	B.アンケートで「日本オペラに関心を持った」と回答する人 100 人以上	B.明確な人数は不明
C.外国人来場者促進のための広報活動	C.ウェブサイトでの公演情報の英語表記。舞台字幕の英語併記	C.ウェブサイトでの公演情報英語は未実施。舞台字幕の英語併記は実施。また、日本語のオペラではあるが、日本語字幕表記も実施。

（※2）・（※3）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	高崎では日本文学の名作である「高野聖」をモチーフとしたオペラを上演作品に取り上げたことが、和製オペラとして注目される結果となった。日本の伝統芸能である歌舞伎界の雄である坂東玉三郎氏の出演により、伝統的な純国産のオペラが実現できた。また、インバウンド需要を考慮し、英語字幕の掲出、プログラムの英語表記を用意し、日本発のオペラを広く海外へも発信できるように意識した。また、チケット料金をＣ席 4,000 円・25 歳以下 2,000 円と設定。収益性の考慮にとどまらず、観賞の敷居を下げる対応を行ったところ、20 代以下の来場者が全体の 12.7%と学生や若い世代の来場が一定数見受けられた。 金沢では地元大学とのコラボ企画や市役所内でのランチタイムコンサート等を通じて、若い世代へも働きかけていたが、公演来場者のアンケート結果は５０代、６０代が約６割を占め、３０代以下は、２割に届いていない。実際の券売は 23 枚（大学生以下）となっており、昨年の 73 枚より大幅に減少したが、昨年は児童合唱団が公演に参加しておりそこでの券売が大きかったと考えている。 オペラ公演の購買層は高齢の方が多く、若い世代へのアピールとして主にＳＮＳ（ＦＢ（フェイスブック）、Ｘ）を通じて広報を行ったが、結果に反映できておらず、今後の課題として、さらに検討していきたい。 日本オペラへの関心度はアンケートからは明確に判断できないが、原作との違いに興味を持った方も多く、中には、日本の文学作品のオペラ化を要望する声もあり、今後、制作を進める上で参考となった。 バリアフリー面では１Ｆ席の大部分にヒアリングループを設置し、難聴者の方にも配慮した。石川県だけでなく、近隣県（富山県）の人工内耳の会にも情報提供を行い、集客に努めた。人工内耳の会の方からは、そもそもヒアリングループの設置された公演自体が少なく、今回の情報提供は大変喜ばれた。次回以降も設置する場合の情報提供を依頼された。 双方字幕に関しては、英語・日本語の２言語で表示した。アリア部分だけでなく、なにげないセリフの大部分も字幕化することにより、わかりやすさを追求した。特に日本語字幕の評判が良く、作品理解につながったとの声を多く聴き、視覚化の重要性を再認識した。 今回、障害者団体と繋がりを持てたことは大変よかった。障害の有無に関係なく、等しく舞台鑑賞できる機会を提供できるように、引き続き情報提供を行っていきたい。
所見	オペラ上演への参加者の多様化を目指し金沢では市民を巻込む取組みにより数々の実績をあげている。他方若い世代の関心については日本のオペラ作品上演であることの意義が届きにくい面もあり若い人の券売に課題を残した。字幕については英語表記だけでなく日本語字幕も導入し好評であった。英語字幕の簡潔で含意ある巧みな表現も見事であった。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目④：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②地域性、③多様性とアクセシビリティ、⑤運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
・公演を終えたソリストたちが口々に「この公演はスタッフの皆さんと一緒に創り上げた感覚が強い」「代表作と胸を張って言える」と共に試行錯誤した達成感を表現してくださった。また「地域ならではの公演は特別な良さがある。また出演したい」と、共同制作オペラだからこその感想を聞くことができた。 ・美術家の土屋氏による舞台美術のプラン意図や解説講座と、実際に舞台で合唱団がつける「仮面」小道具作りを合唱団や高崎・金沢両スタッフで行ったことで、舞台美術の効果や、各場面での意味を理解して皆が携わる貴重な機会になった。また、高崎・金沢両スタッフの意見交換も行う交流に場にもなった。 ・金沢では地域の大学生が研究の題材としてゼミで取り上げる企画を行ったが、公演当日はチケットもぎりなどのお手伝いをして、オペラを初めて鑑賞し、これからも舞台を鑑賞したいと思ったとの感想をいただけたことは若い世代へのアプローチになった。 ・お客様からは、泉鏡花の作品をオペラ化という取り組みについて、まだオペラ化できそうな作品がたくさんあるので是非続けてほしいとのご意見をいただいた。 ・オペラに初参加となった山海塾の方からは、初めての経験でとても刺激を受けた、海外にも広げていける作品とのご意見をいただいた。 ・スタッフの意見交換の中では、新作を初演して終わるのではなく、今回のようにリニューアルして音楽もアレンジを加えて再演していくことが大事であることを認識した。 ・広報物のデザインを泉鏡花の作品デザイン画も多く手掛けている山本タカト氏に依頼したことで話題になり、幅広い世代へのＰＲになった。また、金沢では泉鏡花記念館にて同時期に山本タカト氏のイラスト展も連携して行い、相乗効果となった。 ・衣裳を担当した金沢の明治時代から続く「梅若演劇衣裳店」のスタッフから、このような舞台に関わることができたことは長い歴史の中でも大きな経験になったとの意見をいただいた。また、演出家の希望によって泉鏡花の象徴的な羽織りのデザイン（吉原紬）を本物に近い形で何度も演出家と試行錯誤して再現した衣裳を制作したこともとても大きな挑戦だったと語った。

（２）自己評価

評価項目⑤：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（ウ）〉

評価の観点	（ア） 参画する劇場・音楽堂等の相互の連携体制が十分であり、各館の企画制作能力の向上が期待できる。	（イ） 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、寄付金、協賛金、各種助成金など、多様な財源の獲得に努めている。
現状（※１）	連携、意見交換を頻繁に実施。期待できる。	予算計画は妥当である。 広告協賛募集に努めている。
目標(値)（※２）		
実績(値)	協定書による役割分担	協賛金の獲得（７社）
団体の自己評価	協定書に従って役割分担を行い、各自が責任もって効率的に業務遂行できた。	企画段階から実施段階に進むにつれ予算が増加したが、７社から協賛金を集めるなど、財源の確保に努めた。
所見	連携体制がうまくいった結果の好演と考える。	７社からの協賛金獲得は評価できる。
対応・追加情報		

評価の観点	（ウ） 広報計画が充実しており、券売・集客、支持者の広がり、認知度の高まりが期待できる。
現状（※1）	計画を立てて実施しており、期待できる。
目標(値)（※2）	
実績(値)	チケット完売
団体の自己評価	金沢では２年連続でチケット完売できたことは大きな成果であった。特に昨年度より民間事業者（指定管理 JV 民間法人）にも参加してもらい、新たにバスツアーを企画するなど、民間の販売ノウハウを集客に反映できた。
所見	金沢の２年連続のチケット完売はこれまでの実績と広報努力の成果と考える。他方高崎は今後の課題として参考にしてほしい。
対応・追加情報	

○「活動環境に関するチェックシート」より〈(エ）～（カ)〉

評価の観点	（エ） 関係する劇場・音楽堂等それぞれにおいて、専門性と劇場運営に必要な資質を備えた人材の確保、配置が適切に行われている。	（オ） 各種ハラスメント防止対策のための指針等を明文化し、具体的な対応策を講じ、職員等に周知している。
現状（※1）	業務分担を適切に行っている。	周知して実施している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	【金沢】プロパー技術職員配置：２名 事業制作職員：８名（事業課合計） 【高崎】プロパー技術職員配置：７名	研修会の実施 ハラスメント防止規程の制定 ハラスメント相談窓口の設置
団体の自己評価	プロパー技術職員を劇場に配置しているほか、事業部門にも多くの経験ある職員を配置し、スムーズな運営を行っている。	年１回の研修会を通じてハラスメント防止に取り組んでいる。職員全員参加必須であり、職員の意識向上に寄与している。
所見		ハラスメント防止策は今後も継続してほしい。
対応・追加情報		

評価の観点	（カ） 芸術家等への仕事の依頼において、適正な契約関係が構築できるよう、ガイドラインにそって書面による契約を行っている。
現状（※1）	実施に向けて検討中である。
目標(値)（※2）	
実績(値)	条件を明文化して依頼
団体の自己評価	出来る限り、書面にして条件提示を行い、お互いに齟齬のない契約を行っている。
所見	ガバナンスの重要性は高まっている。不祥事が生じることのないよう書面による契約を望む。
対応・追加情報	

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
金沢は、毎年開催しているオペラ事業であるが、今回は小道具制作ワークショップを実施するなど出演者が参加できる企画を開催出来たことは参加者の満足度向上につながった。また、地元博物館（泉鏡花記念館）との連携もあり、同館が自らの企画として公演チラシの原画を展示されるなど、関係者が主体的に関連企画を実施するなどの広がりがあったことは地域の文化力向上の観点で大変有意義だったと考えている。制作面では昨年同様、制作の一部を劇場指定管理者であるＪＶ構成法人（民間法人）にも行ってもらい、ノウハウの共有を図るとともに主に広報面で民間の知見を得て戦略的に行ったことは今後制作を進める上で大きな財産となった。また２年連続でチケットが完売するなど、ここ２年は、集客面でこれまでにない成果が出ており、地方都市においてもオペラ文化の根は着実に広がっていることを感じている。 一方高崎は、金沢がこれまでに培ってきたオペラ制作や公演制作のノウハウを結集し、開館 7 年目の高崎芸術劇場でも地域の特色を前面に打ち出した最高峰の舞台を実現することが出来た。日本文学の名作を題材とした作品であり、日本語上演、日本作曲界の重鎮の作曲により、クラシック界における邦人作品の歴史的な一面を作り上げることが出来た。 チラシ制作においては、竹久夢二を彷彿とさせるイラストを作成していただき、まさにイメージの具現化が出来た素晴らしいものが完成した。その素晴らしさを転用したＴシャツなどのグッズは、多くの方が買い求める商品となった。 入場者率に関しては、高崎公演では目標値に届かなかったが、来場した聴衆からは口々に素晴らしかったとの好評をいただいた。作品としての完成度は評価できたものの、事前の告知の改善が求められ、邦人作品のオペラの広報の難しさが露呈された結果となった。

所見
共同制作における金沢歌劇座と高崎芸術劇場の連携は R3 年に続き 2 回目である。今回は日本文学を取上げ日本語による話題性のある上演であった。高崎では西洋の有名作品でないことが集客に影響したのではないか。他方金沢の集客力の高さは現地が泉鏡花出身地であるという地の利があったのかもしれない。 欧州における文学のオペラ化としてはシェイクスピア、ゲーテ、プーシキンなどの作品がヴェルディ、グノー、チャイコフスキーなどにより芸術作品としてオペラ化され今でも上演を重ねている。我が国ではまだその事例が少ない。今回の舞台は 2011 年以来の再演ではあるが泉鏡花文学作品のオペラ上演は意義深いものといえるだろう。 作曲者の池辺晋一郎氏は「オペラは音楽による演劇である」という。「オペラとは演劇的な音楽」という見解への反論としてである。音楽があり、音楽の営みの中で芝居が存在し展開していく。今回の上演ではたっぷりとした音楽が流れ、その中で上人や冥界の存在が生き生きと描かれていた。 地域との連携としては金沢において小道具製作ワークショップで創られたものを本舞台で使用したり、泉鏡花記念館等の連携など地域を巻込む取組みを行なった。地域オーケストラや合唱団などの参画は共同制作の目的である地域コミュニティの創造、再生および実演芸術に対する関心、参加意欲を高めることに意義があり、多様性とアクセシビリティの観点からも評価したい。 今後も地域資源の蓄積を踏まえながらさらなるクォリティの向上を期待したい。

備考